

馬場ひでゆきの活動日誌

No.66

今、大町5丁目が熱いです。古びた町家が個性的なお店やギャラリーに代わっています。今回は町家で活動するお二人にお話を伺いました。

「オフィスたてぐや北」の差配人

小林 誠さん

このお店は、令和6年1月にオープンしました。

店の建物は小林さんのご親戚の所有でした。ある日、ご親戚から、空き家の活用方法の相談を受けました。

小林さんは、仕事の傍ら、古道具や雑貨をリメイクして、それを「浄興寺de縁日」などのイベントに出してきました。

「わずかな費用で作品を常設で

きる場所をつくりたい」とイベントで知り合った地元の作家さんたちに声をかけてお店を分けあうことにしました。現在では16人がお店をシェアしています。

店に入ると、アンティーク品や個性的な建具、芸術作品等が並べられていて飽きません。

お店を開けていると、不用品を持ってきたり、「自分の実家が空き家なんだけど使ってくれ人はいないか」という相談もあるそうです。店が人々の出会いの場になっています。

小林さんは「大町界限は手つかずのまま昔の面影を残している。これを大切にしていきたい」「古いものを暮らしに生かそう」を合言葉にして定期的に市（マルシェ）を開催していきたいと抱負を語ってくださいました。



オフィスたてぐや北川さんの店舗の様子

ギャラリー空のおもちゃ箱

高橋和真さん

次に訪問したのは、「ギャラ

リー空のおもちゃ箱」です。

お店のご主人は高橋和真さん。

高橋さんは大学生の時にパッケー

ジクラフト（お菓子などの空き

箱のパッケージデザインを活か

して作る紙工作）を考案し、そ



高橋さんの手元には詳細な設計図がありました。

の面白さを伝えるためにギャラリーをつくりました。高橋さんはその世界では第一人者で、誰もが知る有名お菓子メーカーなどと連携をして仕事をされています。国内外で活躍しています。

作品を見せていただきましたが、もう驚くばかり。私ならすぐ捨ててしまうお菓子の箱やお酒の空き箱が、犬などの動物や

クワガタ

などの昆虫、ロボッ

トに大変

身してい

ます。空

き箱をた

だ形にす

るのでは

なく、そ

の色やデザインを活かしながら、

無駄なく使って作品を仕上げて

います。

高橋さんは定期的にワークショップ

も開催、是非一度足を運んで

みてください。

※人口減少・高齢化が進む中で、

それでも多くの皆さんが街を賑

やかにしたいと考えています。

私も、見た耳聞いたり読んだ

り考えたことを今後もこの誌面

で紹介します。



お酒の箱でできた作品

6月県議会の報告です！

松代病院無床診療所化について

県は、本年5月、松代病院を来年4月に無床診療所化する方針を明らかにしました。これは非についての議論を紹介します。

「松代病院は、令和6年度の県の信頼される県立病院づくりのための住民ニーズ調査では、中央病院に次いで2番目に信頼される病院であり、無床化には住民に相当の抵抗感がある。

松代・松之山地域の地理的特性や高齢化状況からすれば、無床化は地域医療の断絶になる。

令和5年9月時点での同地域での高齢化率は53・1%。要支援・要介護認定者は545人、認定率は29・3%、新潟県の中でも高い。

令和6年度は、39床のベッドで一日当たりの入院患者は26名、病床稼働率65%になる。

全廃ではなく、地域包括ケア病床を数床でも維持し、最小限の有床診療所として再設計を求める」

質問したのは、十日町市中魚沼郡選挙区選出の小山大志議員（自民党）です。質問にあたっては、地域の医療従事者から話



松代病院は地元で根付き信頼されている病院です。

を聞いたそうです。これに対して、知事は、入院患者の減少が続いているため、十日町病院に入院機能を集約することとした、有床診療所にすると、夜間の患者対応のため、相当数の看護職員が引き続き必要になり、収支改善が見込めないと、無床化に固執する回答をしました。

※ 松代病院の無床診療所化については、6月29日松之山の会場で住民説明会が開催され、多数の住民が参加されたと聞きました。住民の皆さんも大変な危機感をもっています。無床化に伴い、検査機能もなくなれば、早

私の推し本その26

松谷みよ子「龍の子太郎」（講談社他）

太郎にはうろこの形のあざが三つあり、村人から「龍の子太郎」と呼ばれていた。実は、身重だった母親は、村人と山仕事にでかけたときに、谷川で見つけたイワナ三匹を村人に内緒で食べて龍になってしまった。村には古くから「三匹のイワナを食べたものは龍になる」といういい伝えがあったという。その母親から生まれたのが太郎だった。太郎は、母から離れ祖母の元で育った。

太郎は、母親が遠い北の国の湖にいと聞き、母親に会うために幾重の山を超えていく。ついに湖にたどりつき、湖水に向かってこぶしをにぎりしめて「おかあさん」と叫ぶと、「みずうみの水はどうとゆれ、いちめん、金色にきらきら光だしたかとおもうと、まっぶたつにさけて、りゅうがすがたをあらわした。この場面は何回読んでも泣けてくる。

太郎は、母親に、山を崩して湖水を平地に流せば広い田んぼができてお米がとれる、そこに村人を呼び寄せたい、と提案。

太郎が龍の母親の首にのっかり、龍の体をでっかい山にぶつけて山を切り崩す。壮大なファンタジーだ。ただし、この物語、松谷が信州で聞き集めた民話が基になっている。その当時の人々の喜びや悲しみを松谷がそれを受け継ぎ現代によみがえらせた。だからこそ、この本は長く読み継がれてきた。決してファンタジーだけではない。



期の診断もできません。これは、地域医療の断絶に繋がります。私も住民の皆さんと意見交換し、存続の声を県に届けていきます。

オランダ海外視察に反対

議会最終日、自民党より議員のオランダ海外視察の提案がなされました。

視察の目的は「オランダは世界有数の農業輸出国でスマート農業に取り組んでいる、本県農業においても経営や生産技術の最適化を図り、高い生産性、収益性の実現に資する取り組みについて、調査する」というものです。

私は、次のとおり反対しました。①本県農業の喫緊の課題は安定的な稲作農業を実現させることにあるが、これにオランダの取組がすぐに役に立つとは思えない、②県民が物価高騰で生活の困窮を余儀なくされている中で、目的があいまいな海外視察が、県民から支持されるとは思えない、というものです。反対は、私一人だけでした。

参議院選挙が始まりました

参議院議員選挙が告示されました。投票日は7月20日です。4月の県議会でも、柏崎刈羽原発の是非を問う県民投票条例案が否決後、県民の気持ち置き去りのまま、県の主導で再稼働への動きが加速化しています。国政選挙ではありませんが、新潟県選挙区では、柏崎刈羽原発の再稼働も重要な争点になっています。皆さん、投票所に足を運び、一票を投じましょう。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイアパレス高田武番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp